

令和 7 年度 認知症地域支援推進員の活動 資料3-1

具体的な活動内容

目 標	具体的活動
1 認知症への理解を深めるための正しい知識の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・あしやトライあぐるでの広報活動 ・地域見守りネットワーク登録企業等への周知啓発 ・福祉センターでのパネル展示 ・図書館での普及啓発イベント ・市民向け講座の開催
2 相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携 ・認知症事例検討会 ・四季の会への参画
3 地域で支える体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの検討 ・あしやの会の開催
4 若年性認知症の人への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット改訂 ・若年性認知症ネットワーク会議

1

1

具体的な取り組みと全体スケジュール


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 啓発							あしやトライあぐる(10月放映)					
				地域見守りネットワーク登録企業等への周知啓発			図書館での普及啓発				福祉センターパネル展示	市民向け講座の開催
2 相談			事例検討会①			事例検討会②		事例検討会③		事例検討会④		事例検討会⑤
	四季の会①			四季の会②			四季の会③			四季の会④		
3 地域	あしやの会(奇数月第三金曜日)											
	チームオレンジ検討											
4 若年性	若年性リーフレット改訂											
	若年性認知症NW会議(個別)			若年性認知症NW会議(個別)			若年性認知症NW会議					若年性認知症支援ネットワーク強化研修会


2


2


1 認知症への理解を深めるための正しい知識の普及・啓発


①取り組み内容・概要

- 図書館での普及啓発イベント**


図書館(本館)にて認知症に関する書籍の展示・貸出・紹介を行う。合わせて、認知症相談センター等のパネル展示や認知症カフェちらしを設置。市章のライトアップも実施。
- あしやトライあぐる**


認知症カフェやあしやの会、あじさいの会の紹介。協力企業へのインタビュー等を放映。
- 地域見守りネットワーク
登録企業等への周知啓発**


地域の関係企業への聞き取り調査を行い、認知症の人への対応での連携及び啓発活動を行う。
- 福祉センターでのパネル展示**


福祉センターエントランスにて認知症に関するパネルを設置。(2月24日～3月19日)
- 市民向け講座の開催**


認知症に関する講演会等を行い、普及啓発を行う。

②課題・目標

新しい認知症観の理解を深め、当事者がいつまでもいきいきと、安心して暮らせる地域づくりを展開する必要がある。
引き続き、地域の企業、認知症カフェとも連携しながら、新しい認知症観を広く市民に啓発する。



3

3

1 認知症への理解を深めるための正しい知識の普及・啓発

取組結果報告

③取り組み結果

取組項目	具体的な内容
図書館での普及啓発イベント	令和7年9月2日～10月4日まで市立芦屋図書館で開催。認知症図書の貸し出しが増える。パネル展示等を通じて啓発が行えた。
あしやトライあぐる	令和7年10月に「特集つながる、支えあう～あしやの会・認知症カフェ～」と題してあしやトライアングルにて広く市民に啓発を実施。
地域見守りネットワーク 登録企業等への周知啓発	各包括が連携している店舗や企業等へ聞き取りを行う。次年度も継続して周知啓発を行う。
福祉センターでのパネル展示	令和8年2月24日～3月19日パネル展示。福祉センター来館者に対して広く普及啓発が行えた。
市民向け講座の開催	芦屋市が行う令和8年2月13日の神戸大学との協定締結記念講演のテーマを協議、開催協力を行った。テーマ「認知症の真の共生と予防を目指して」150名を超える市民が参加。

④取組から気づいたこと

あしやトライあぐるを含め、さまざまな媒体を利用しながら普及啓発に取り組めた。
新しい認知症観の理解を深め、当事者がいつまでもいきいきと、安心して暮らせる地域づくりを目指して当事者の意見を反映、活動にも参画してもらいながら啓発をしていく必要がある。

4

2 相談・支援体制の充実

①取り組み内容・概要

医療機関に対して、認知症相談センターの役割を周知・普及啓発すると共に、介護保険に限らない社会資源の紹介や、医療機関との個別の事例検討を実施しながら、地域で支える体制づくりを目指している。

具体的取り組み

- (1) 兵庫医科大学病院と加藤心療内科クリニックとの事例検討を継続実施
- (2) 芦屋市在宅医療・介護連携支援センターを通じて医療機関への情報発信の場を検討
- (3) 兵庫医科大学病院 認知症疾患医療センターと連携し四季の会に参加し、地域の社会資源の紹介

②課題・目標

【課題】

- ・医療機関から認知症相談センターへの相談件数は少なく、普及が十分とは言えない。
- ・介護保険サービス外の社会資源についても、情報が届きにくく、活用が進みにくい状況にある。

【目標】 医療との顔の見える関係づくりを行い、連携をスムーズに行える。

5

5

2 相談・支援体制の充実

取組結果報告

③取り組み結果

(1) 兵庫医科大学病院と加藤心療内科クリニックとの事例検討を継続実施

合計5回実施。事例を通じて、認知症のある本人や家族への関わり方について考える機会となった。また、顔の見える関係づくりにつながった。

(2) 芦屋市在宅医療・介護連携支援センターを通じて医療機関への情報発信の場を検討

次年度は医師が集まる場に出向き、地域資源等の紹介を行う予定としており、地域の開業医に直接的に情報提供を行っていく。

(3) 認知症疾患医療センターと連携し四季の会に参加し、地域の社会資源の紹介

合計4回参加。市内の住民が参加された際には、地域の社会資源について紹介を行い、芦屋市内でも居場所を探してもらう機会となった。

④取組から気づいたこと

相談窓口や地域資源の周知については、取組の中で一定の成果が認められた。一方で、情報発信が個別・点的なものにとどまり、地域全体に向けた継続的な普及には至っていないという課題が見えた。また、認知症の初期段階から認知症相談センターの相談につながるケースは少なく、結果として支援につながるまでに時間を要する可能性があることが考えられる。今後は、関係機関との連携を一層強化し、情報発信の機会を継続的に確保するとともに、地域資源や相談窓口について、より分かりやすく示し、早期の相談につながるような工夫を行っていく。

6

3 地域で支える体制づくり

①取り組み内容・概要

認知症の方やその家族が、住み慣れた地域で安心して生活できるように、あしやの会の開催や地域への周知啓発、認知症サポーターとも協力しながら地域で支える体制づくりを目指している。



②課題・目標

(1)チームオレンジの検討

【課題】 本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み(チームオレンジ)が整備されていない。

【目標】 チームオレンジの設置

⇒既存の資源で、チームオレンジと同じ機能をもっているものがあるのではないか検討していく。

(2)あしやの会の開催(奇数月 第3金曜日)

【課題】 当事者の参加が少ない。

【目標】 当事者が気軽に参加することができる。

⇒当事者のやりたいこと、やってみたいことを聞きながら、次の開催内容を決めていく。

今までは福祉センターで開催していたが、市内全域から参加しやすいようにリード芦屋で開催。

開催内容によっては外出も検討。

医療機関やケアマネジャー等の関係機関に対しての周知啓発。

7

7

3 地域で支える体制づくり

取組結果報告

③取り組み結果

(1)チームオレンジ

「あしやの会」「あしやの会@ふらっと」に本人、家族、ボランティア、専門職が参加しており、チームオレンジとして今後も活動を続けていく。



(2)あしやの会

全6回実施予定。参加者数合計38名(3月含まず)

当事者の方々と相談しながら、開催内容や場所を検討。地域やケアマネジャーへ周知啓発を行い、昨年度より当事者の参加が増えた。



(3)認カフェ連絡会

市内の認知症カフェ計8か所が集まり、情報共有や今後の活動について話合う機会を持った。

次年度は協働で認知症カフェの周知を行う予定。

④取組から気づいたこと

今年度のあしやの会は、当事者や家族が地域と繋がるきっかけになったと考えられる。

一方で、生活のことや困りごと等を共有し、意見交換を行うための時間をとることができなかったことが課題であった。次年度はイベントだけでなく、参加者が自身の思いを伝えられるような工夫を行っていきたい。

当事者の意見を聞くことで、地域で必要な取り組み等を検討していく。



8

8

4 若年性認知症の人への支援

①取り組み内容・概要

- (1) 若年性認知症啓発リーフレット改訂
R4年度に作成したリーフレットをより手にとってもらえるものに改訂する
- (2) 若年性認知症ネットワーク会議を開催
(システム検討会議) 支援システムの構築や、不足する社会資源、インフォーマルサービス等の創出に関する検討・取組を行う。
(個別支援会議) 新規で相談のあったケースにおいて随時開催する

②課題・目標

- (1) 若年性認知症啓発リーフレット改訂
【課題】
若年性認知症に関する相談が少なく、地域の方にリーフレット等を活用した周知が出来ていない。
【目標】
若年性認知症ネットワーク会議で意見をもらいながら、若年性認知症啓発リーフレットを改訂
- (2) 若年性認知症ネットワーク会議(個別支援会議)開催
【課題・目標】
若年性認知症の方への支援が多方面にわたり、多機関連携において支援が必要である。
本ネットワーク会議を開催することで、どの構成機関が相談を受け付けても、チーム体制で支援が出来る体制をつくる。
また、個別ケースから地域課題も検討することで、今後の必要な取組につなげる。

9

9

4 若年性認知症の人への支援

取組結果報告

③取り組み結果

- (1) 若年性認知症啓発リーフレット改訂
若年性認知症ネットワーク会議システム検討会議を開催(参加者22名、1回実施)した。
会議では、当事者・家族・関係機関等が手に取りやすく、理解しやすい内容および構成となるよう協議を行い、リーフレットの見直しの方向性を整理した。
- (2) 若年性認知症ネットワーク会議を開催
個別支援会議を3回開催し、多機関・多職種で支援方針を検討を行った。
関係機関間の情報共有および役割分担を整理し、継続的な支援体制の構築を図った。



④取組から気づいたこと

若年性認知症に関する認知度は十分とは言えず、早期の相談につなげるためには、市民にとって身近でわかりやすい啓発リーフレットの整備が重要である。
関係機関が顔の見える関係のもと連携し、多職種による支援調整を行うことで、支援がスムーズにつながることも改めて認識できた。
今後も、事例を通して支援の質の向上に取り組んでいく。



10

10